

令和4年度 おらほのまちづくり支援事業 実施事業一覧

No.	区分	事業名	団体名	代表者名	交付額	事業概要	成果
1	全町の	オクトバス君南三陸町PRプロジェクト事業	南三陸復興ダコの会	会長 大森 丈広	500,000	オクトバス君南三陸PRプロジェクト ①町内外の各種イベントに着ぐるみオクトバス君を積極的に出勤させ、町をPRする。 ②オクトバス君目録で、ホームページやSNSを活用し、町の情報を発信する。 ③コロナウイルスが終息するまでは、オンラインによる活動を主として展開する。	復興のシンボルキャラクター「オクトバス君」を活用し、全国に向け町をアピールし、活力あるまちづくりを展開した。
2	全町の	被災住民を対象とした「出前モノづくりカフェ」	一般社団法人南三陸YES工房	代表理事 大森 丈広	219,000	町内の集会施設や福祉作業所を会場にし、主に高齢者を対象とした出前のモノづくり教室を開催する。手作りでモノを作ることで「生きがい」や「交流」のきっかけとなり、地域社会の仕組みづくりにつなげていく。 ・ものづくりカフェ（町内4地区 各2回） ・入谷の里山小さな旅（志津川、歌津、戸倉地区 各1回）	町内の集会施設等を会場に、主に高齢者を対象とした地域社会の仕組みづくりにつながる出前のモノづくり教室を開催し、復興住宅団地の課題である地域コミュニティの醸成を推進した。
3	総合戦略	南三陸町自然史普及推進事業	南三陸ネイチャーセンター友の会	会長 鈴木 卓也	1,000,000	・南三陸子ども自然史ワークショップ2022（年1回） 町内外の学識者・有識者を交え、町内の自然史の魅力を幅広い世代に伝える。 ・自然史探検隊（年3回） 町内の子どもたちに故郷の自然に直にふれる体験学習の機会を提供する。 ・南三陸自然史講座（年5・6回） 自然環境活用センター及び町自然史の普及啓発。	子どもから大人まで、故郷の自然史への関心を高め、町の魅力を発信する機会を創出するため、ワークショップや講座等を開催し、総合戦略の推進に寄与した。
4	総合戦略	地域資源を学ぶ展示とふれあい体験事業	みなみさんりく発掘ミュージアム	代表 高橋 直哉	996,000	南三陸町の資源を活用し遊びと学びの場を提供することで、身近で気付かなかった地域の特色を町民に改めて認知してもらう。また、コロナ禍により遠ざかった観光客を誘致し、南三陸の特色を知ってもらい交流人口の拡大につなげる。南三陸ならではの手法と他の地域にはない魅力と遊びを盛り込んで、地域資源の魅力を発信することが目的。 ・屋外カブトムシ、クワガタムシふれあいの場開設 ・世界の昆虫展示とふれあいコーナー開設 ・南三陸町最新の研究紹介コーナー開設	地域資源の魅力発信を目的に、歌津地区において昆虫採集・化石発掘体験や展示イベントを開催し、地域の子ども、保護者への学習機会の創出、観光客誘致につながった。
5	公益活動	子ども木工教室	KITTO（キット）	会長 佐藤 太一	190,000	夏休み子ども木工教室 小学生の夏休み期間において、町内の小学生全学年を対象として木工教室を実施する。 ①学区が異なる子供同士の交流で仲間の輪を広げてもらう。 ②建設業者、木材加工業者、その他地域事業者との交流で顔の見える関係を築く。 ③南三陸杉（FSC認証）に対する町内の認知度をあげる。	町内小学生を対象に南三陸杉を使用した木工教室を開催し、地元産材を知ってもらうきっかけづくり、学区が異なる子どもたちの交流機会の創出が図られた。
6	総合戦略	「森・里・川・海」を感じる自然体験活動事業	おきなくらEELs（オキナクライールズ）	代表 菅原 由輝	588,000	南三陸エリアの「森・里・川・海」をテーマとした自然体験活動の実施 ・みちのく潮風トレイルの活用 ・マリナクティビティ体験会の実施 ・海岸清掃やフィールド整備 ・プログラム技術向上・安全管理研修会の実施 町にもたらす効果として、エコツーリズムの概念が地域に育まれ、町民が町の貴重な地域資源である森里川海の姿を今の形のまま持続可能なものにする必要性を理解し、その保全について自ら動き出す意識が醸成されることが期待できる。	南三陸エリアの「森・里・海」をテーマとした、みちのく潮風トレイル及びマリナクティビティ体験イベントを開催することで、南三陸の地域資源のPR、交流人口の拡大につながった。
7	公益活動	庄内町住民との漁業体験交流事業	南三陸町歌津海山大地交流推進協議会	会長 三浦 光喜	98,000	歌津地区の人的・物的資源を活用しながら、山形県庄内町住民との漁業体験及び交流事業を実施することにより、これまでの感謝とさらなる絆を強め、復興の原動力として、地域の活性化と一体感を醸成し交流人口の増大を図る。 ・庄内町国際交流協会漁業体験交流事業（11月と2月）	友好町である庄内町の方々と、漁業体験交流事業等を開催し、継続して両町の関係を深めることができ、公益的活動支援事業として効果があった。
8	総合戦略	おいしい・楽しい・すこやかな暮らしをこの土地で。いっぱい走れる子どもあそび場 ひころマルシェ 2022	ひころマルシェ実行委員会	実行委員長 中島 綾子	524,000	「この土地でつづく暮らし」をコンセプトにひころの里を会場として、おいしく・楽しく・健やかな暮らしをつくるマルシェの実施。 健康に良い美味しい食べ物、有機農法や減農薬の野菜・果物、天然素材・循環型のモノづくり、体験ワークショップ、癒しの空間、環境に優しい暮らし方の智恵展示 等町内外から50店舗の出店予定。 子供たちがいっぱい走り回れるあそび場を併設、授乳室やおむつ替え室も用意し、子育て世代も安心して参加できるイベントとする。	ひころの里を中心に、町内外の観光客に向けた南三陸の地域資源をPRすることができ、交流人口の拡大にもつながった。
9	全町の	南三陸スポーツフェスティバル	南三陸スポーツフェスティバル実行委員会	会長 三浦 洋昭	0	松原グラウンドを活用し、スポーツ交流を通して世代間並びに多様化するコミュニティの活性化を図るもの。 当該イベントは、将来的に全町を巻き込んだ「町民運動会」の復活を目指し、プレ開催として現実的なコミュニティから地域を興すため実施する。	中止 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため
10	総合戦略	読み聴かせとお手紙で育てるコミュニケーションの輪	Colorful	代表 中村 未来	228,000	ハマレ歌津内かもめ館を会場に地域の大人と子供の交流の場を作り、様々な効果（想像力・集中力・語彙力・理解力の向上）があるとされる絵本の読み聴かせと手紙の作成を実施することで、好奇心旺盛で心豊かな子供たちを地域全体で育てていく。 長期的なビジョンとして、この活動をきっかけに地域内の様々な人がかもめ館に集い、子供たちの放課後時間を豊かにするような活動を展開していきたい。そして、このような活動を町内各地で実施できるよう広げていきたい。	子どもたちの放課後、送迎待機時間を活用し、読み聞かせ会、お手紙ワークショップ、創作ワークショップを開催することで、地域で放課後児童の見守りを行い、新たな地域コミュニティの推進につながった。